

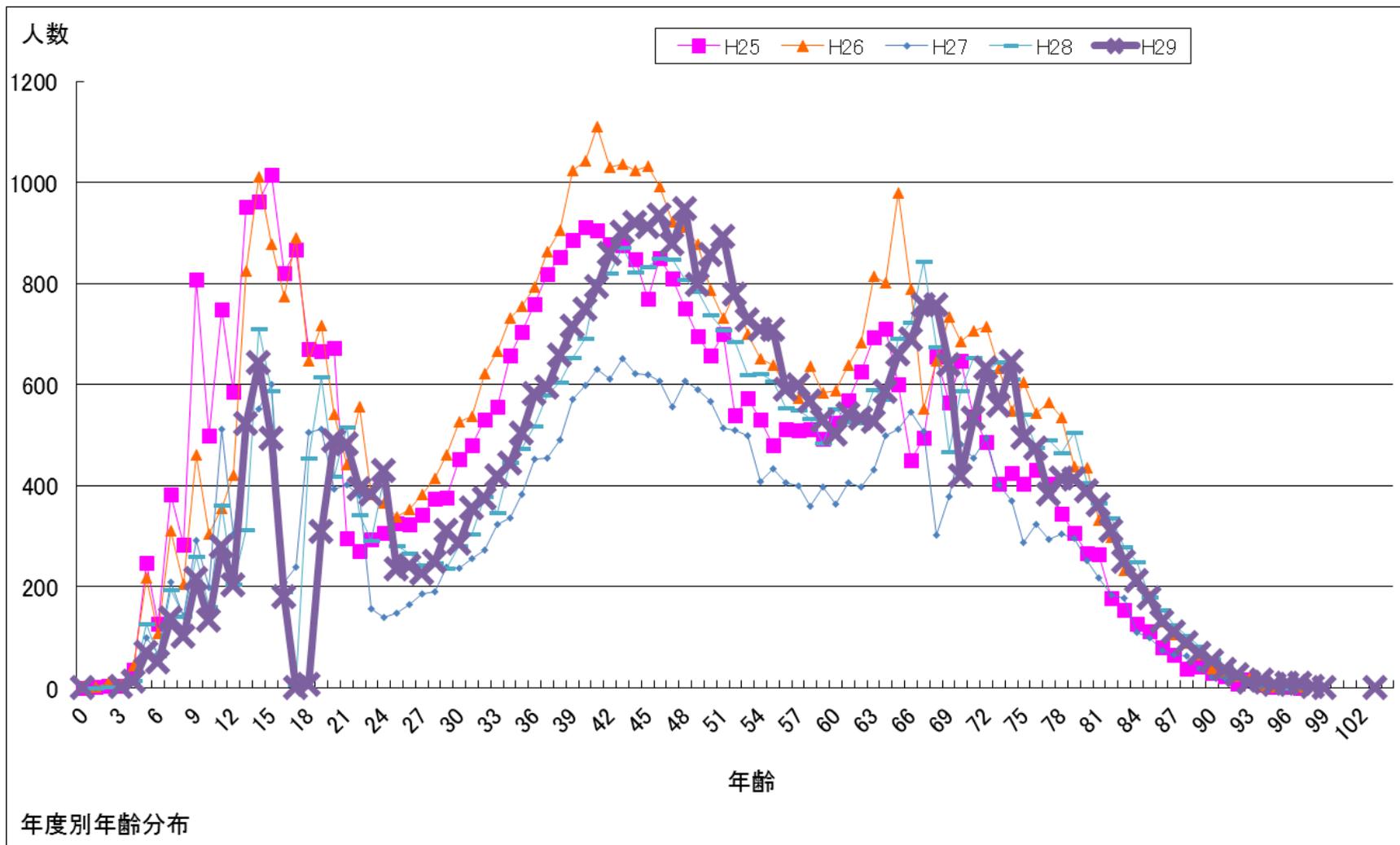
大気汚染医療費助成制度の患者データ年度推移

平成 25 年度から平成 29 年度の 5 年間の患者データについて、各項目別に年度毎の結果を比較した。

1 年齢分布

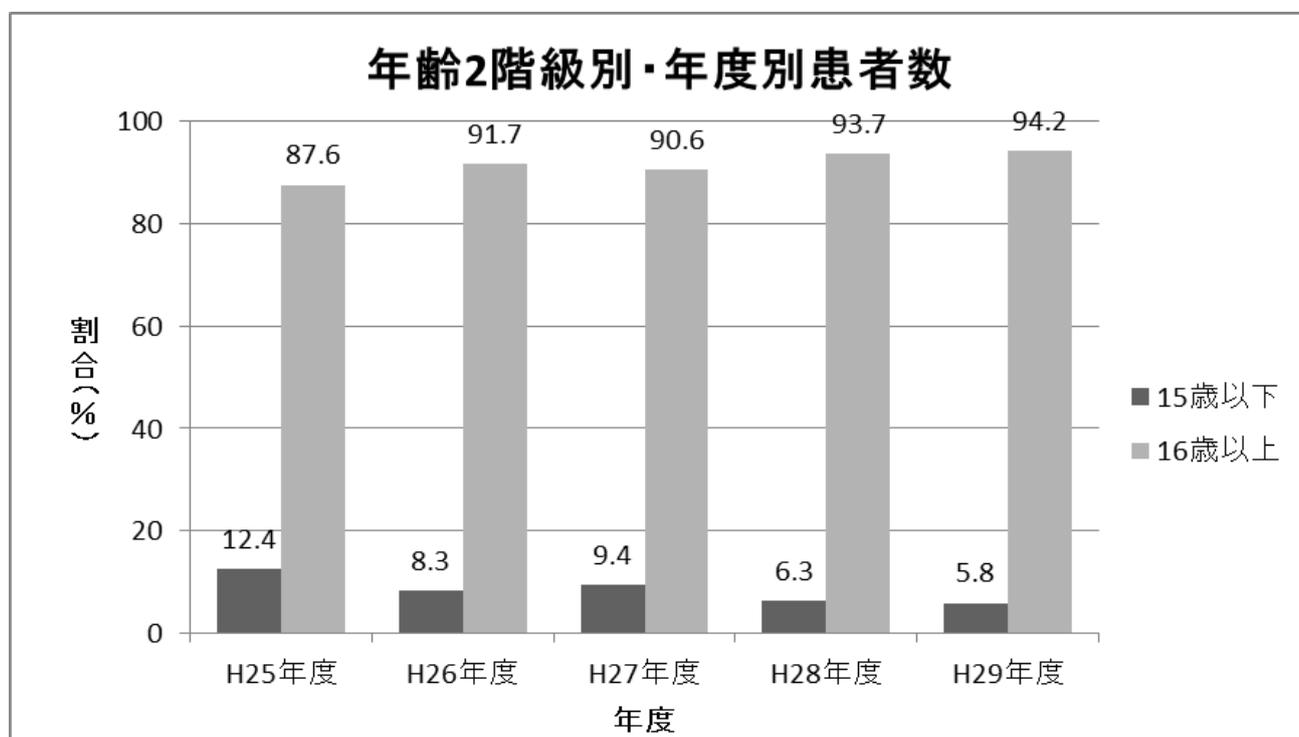
(1) 各年齢の年度別患者数

40歳以上の割合が高くなっている。一方で、15歳以下の割合は減少傾向である。



(2) 年度別の年齢階級別患者数割合

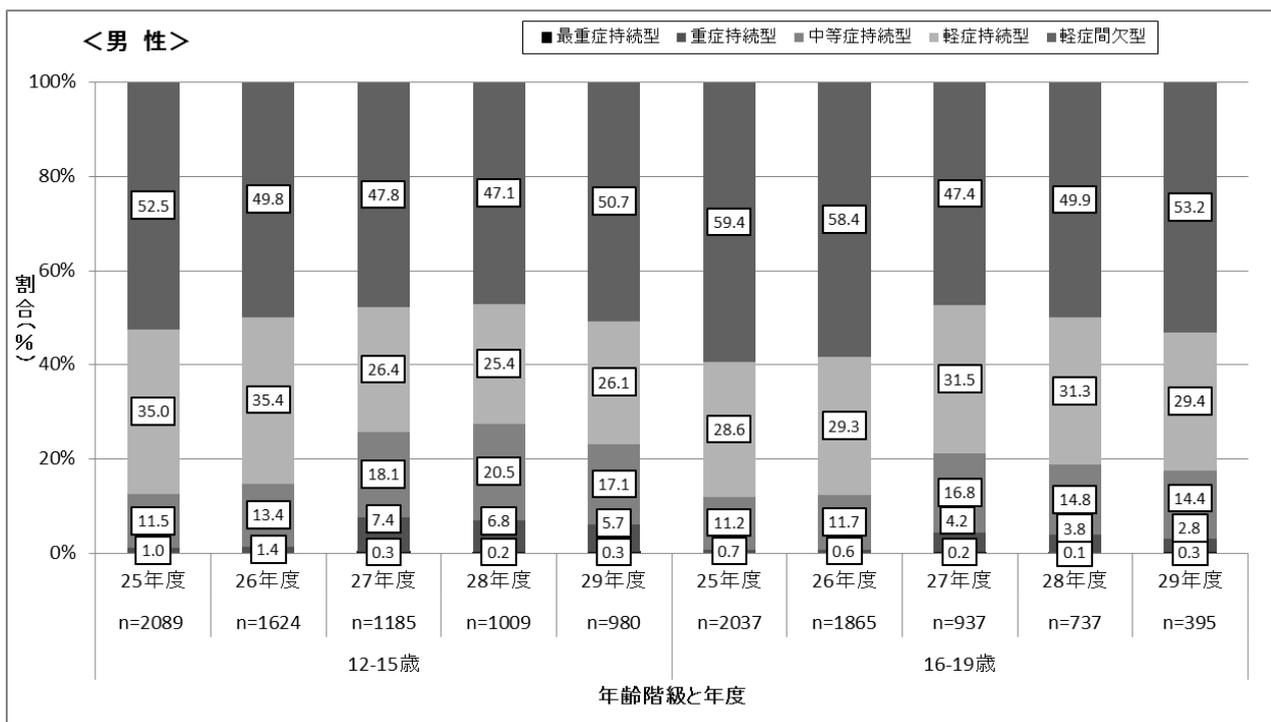
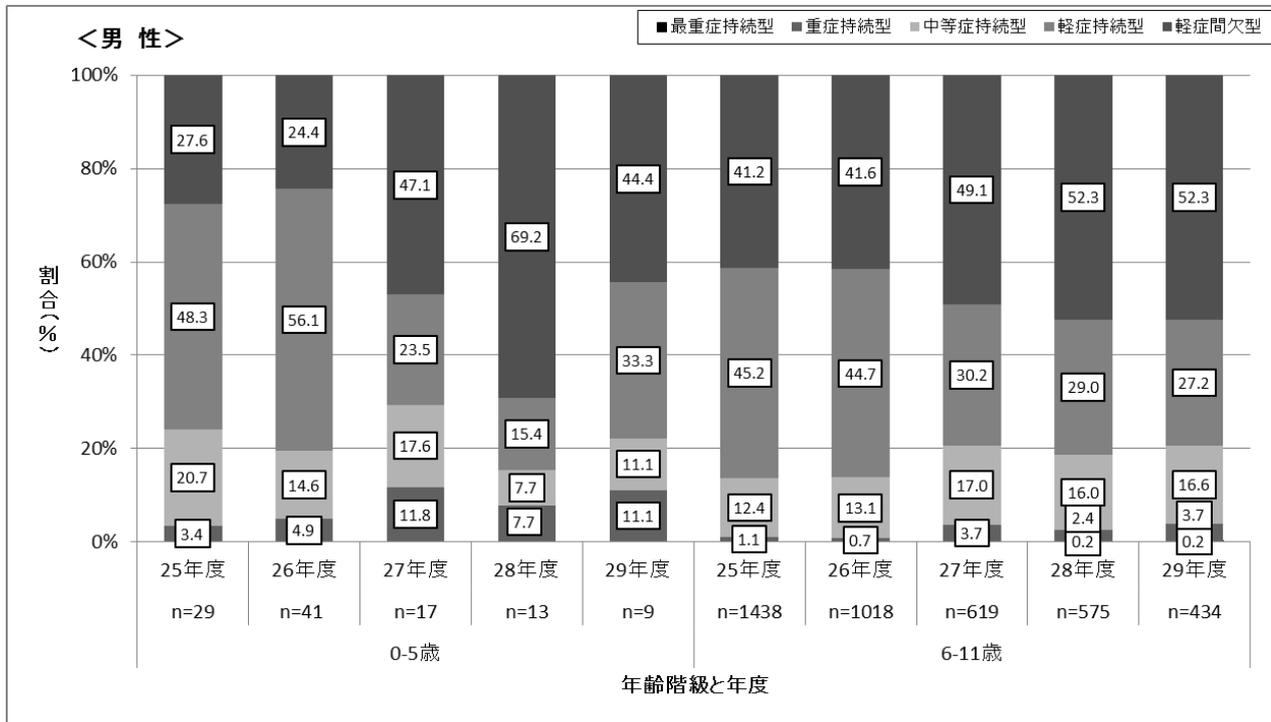
	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	患者数	割合								
0-1歳	1	0.0%	3	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	1	0.0%
2-5歳	48	0.1%	62	0.1%	23	0.1%	21	0.1%	14	0.0%
6-11歳	2346	5.2%	1608	3.1%	1007	3.2%	948	2.3%	708	1.7%
12-15歳	3249	7.1%	2614	5.0%	1889	6.1%	1591	3.9%	1650	4.0%
16-19歳	3375	7.4%	3190	6.1%	1554	5.0%	1240	3.0%	682	1.7%
20-39歳	10063	22.1%	11357	21.9%	6122	19.6%	7812	19.2%	7962	19.5%
40-59歳	14201	31.2%	17105	32.9%	10765	34.5%	14408	35.4%	15836	38.8%
60-74歳	8462	18.6%	10554	20.3%	6576	21.1%	9166	22.5%	8868	21.7%
75歳以上	3734	8.2%	5444	10.5%	3250	10.4%	5535	13.6%	5090	12.5%
総計	45479		51937		31187		40721		40811	

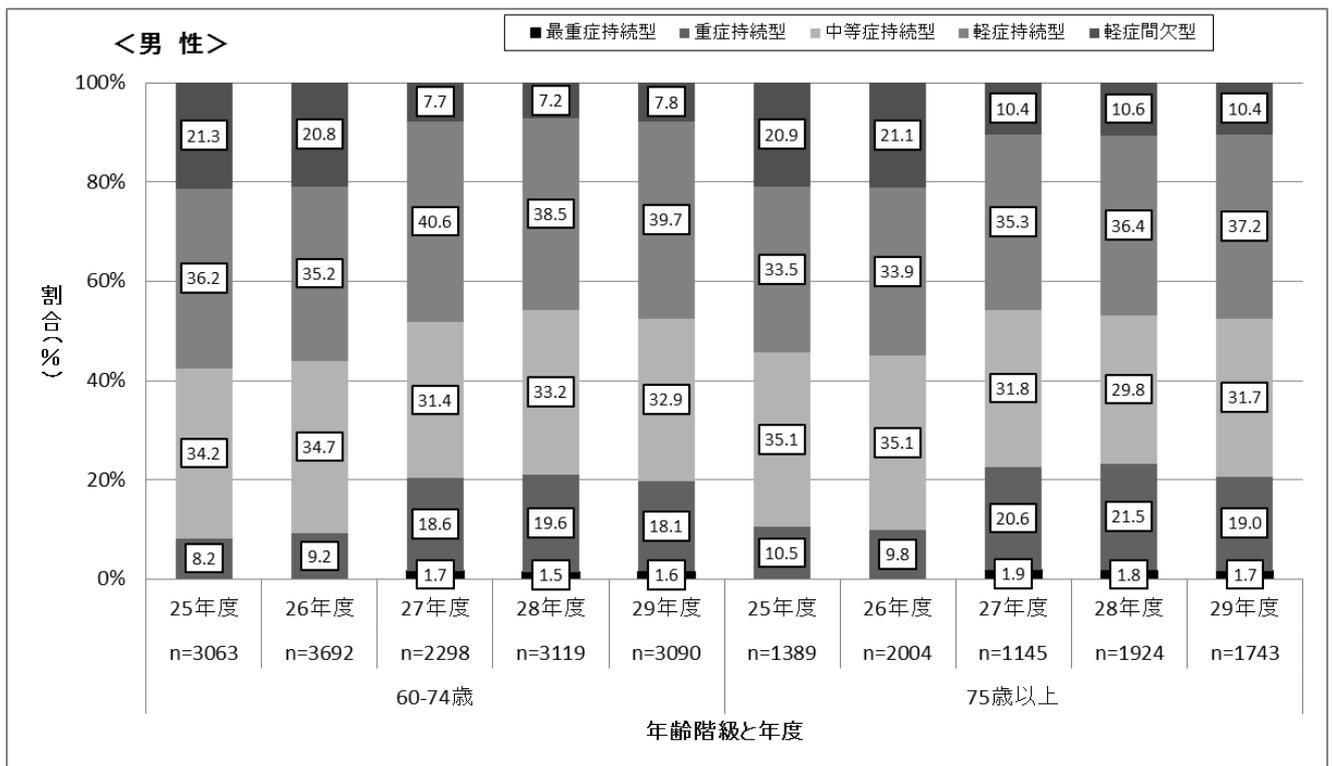
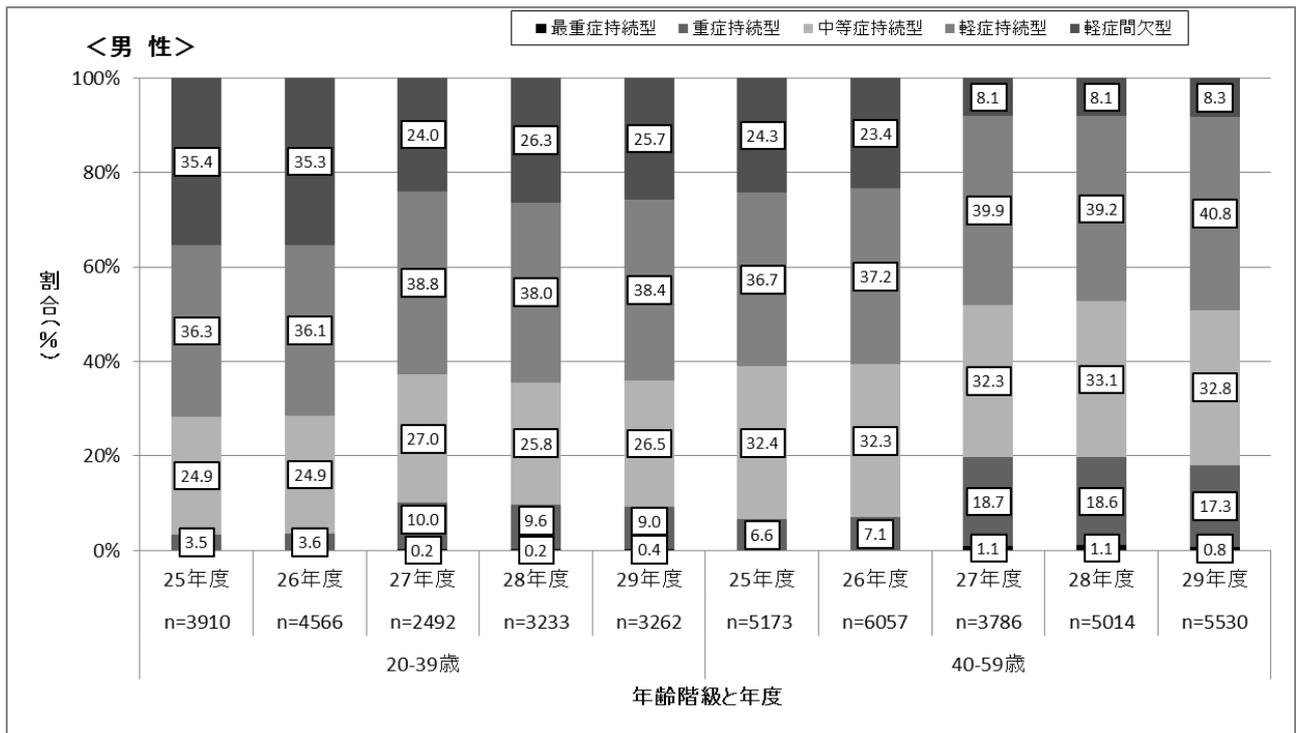


2 重症度分類

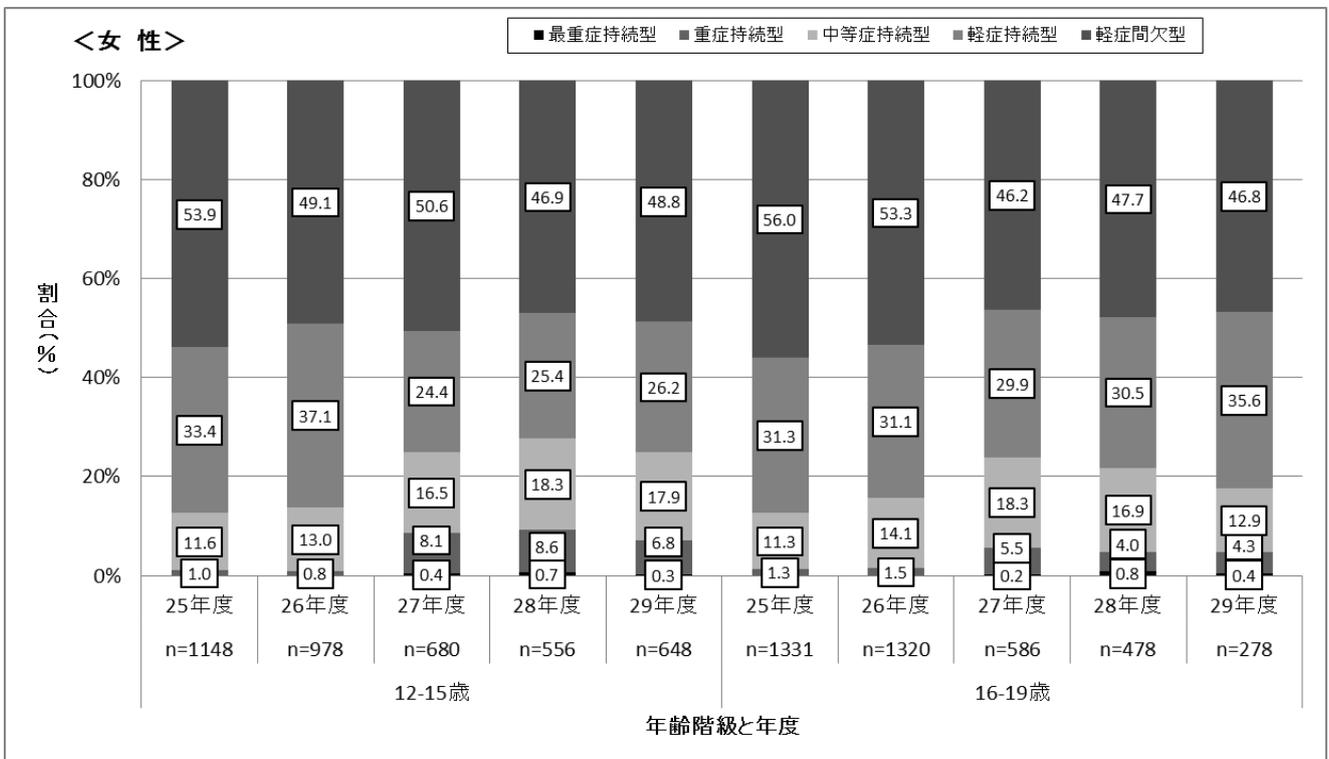
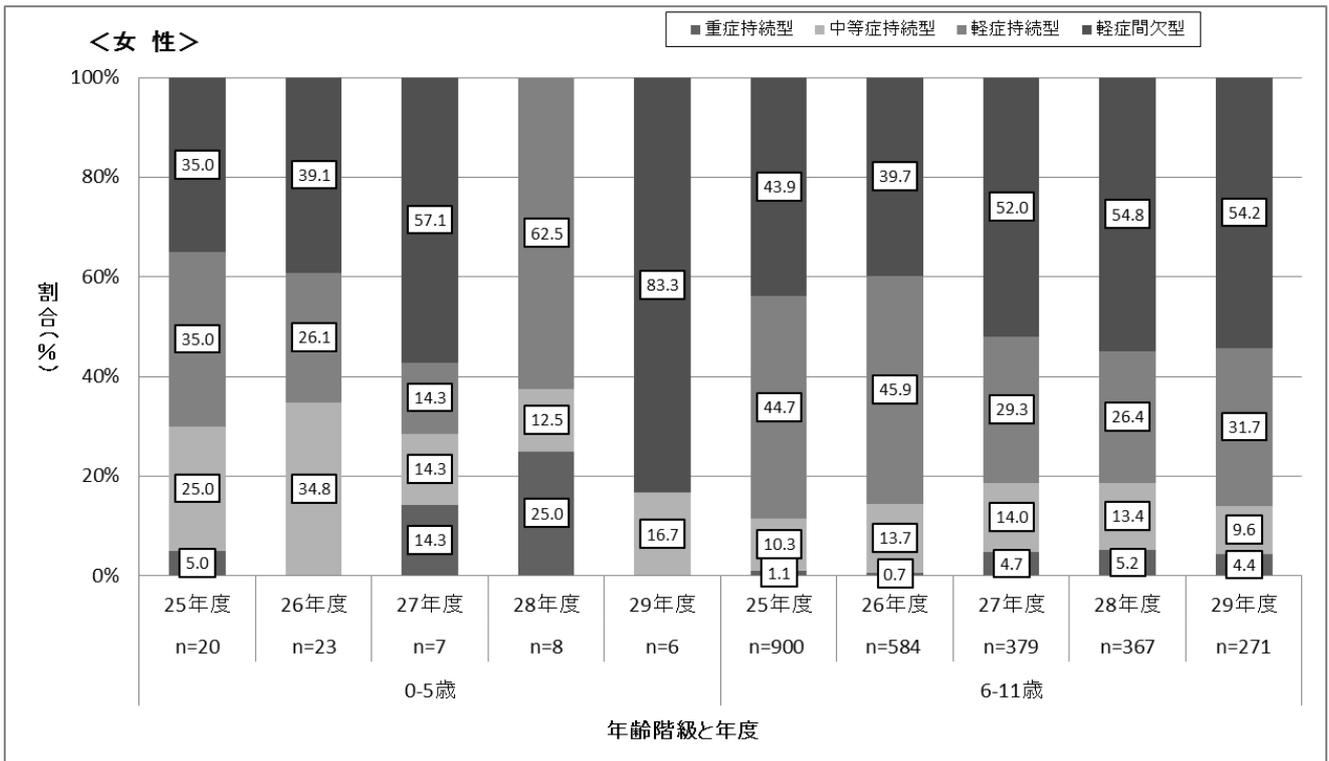
平成 27 年度認定分から改正後の主治医診療報告書となり、最重症持続型を区分できる分類とした。(平成 27 年度認定分から、重症度を分類する算出方法も変更している。)

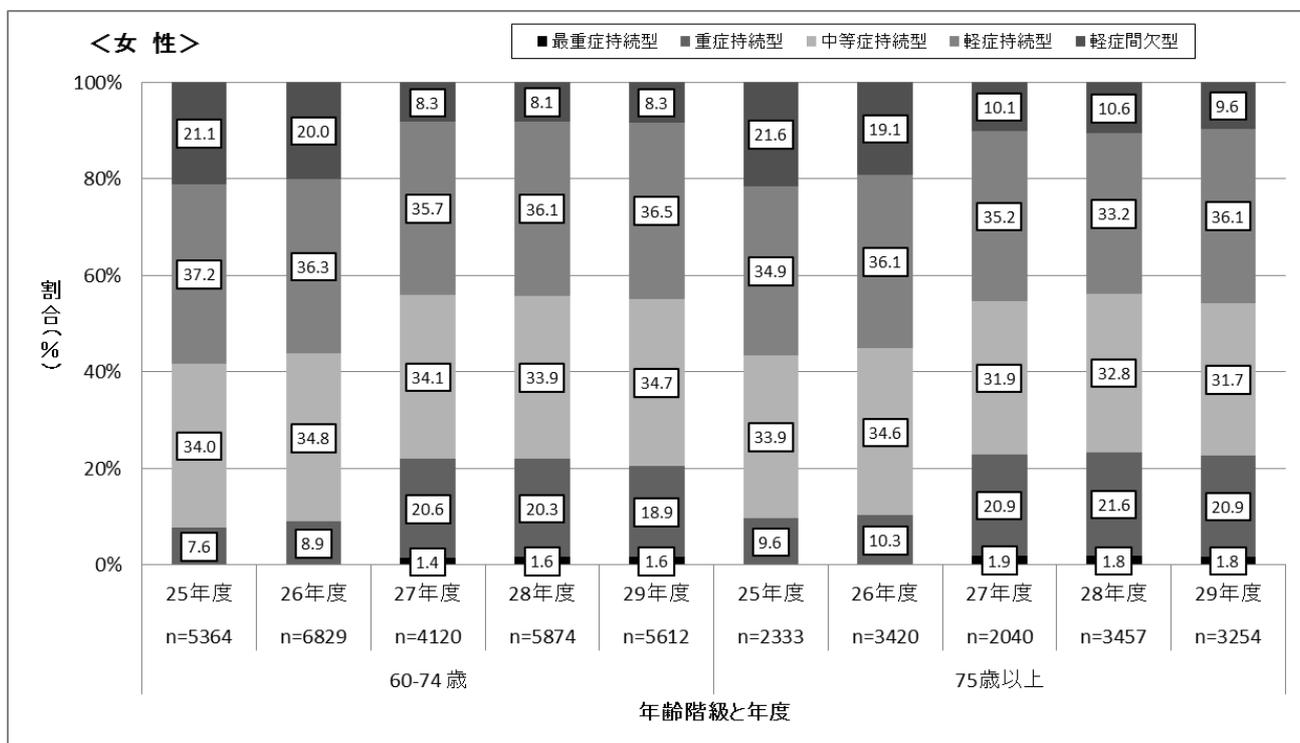
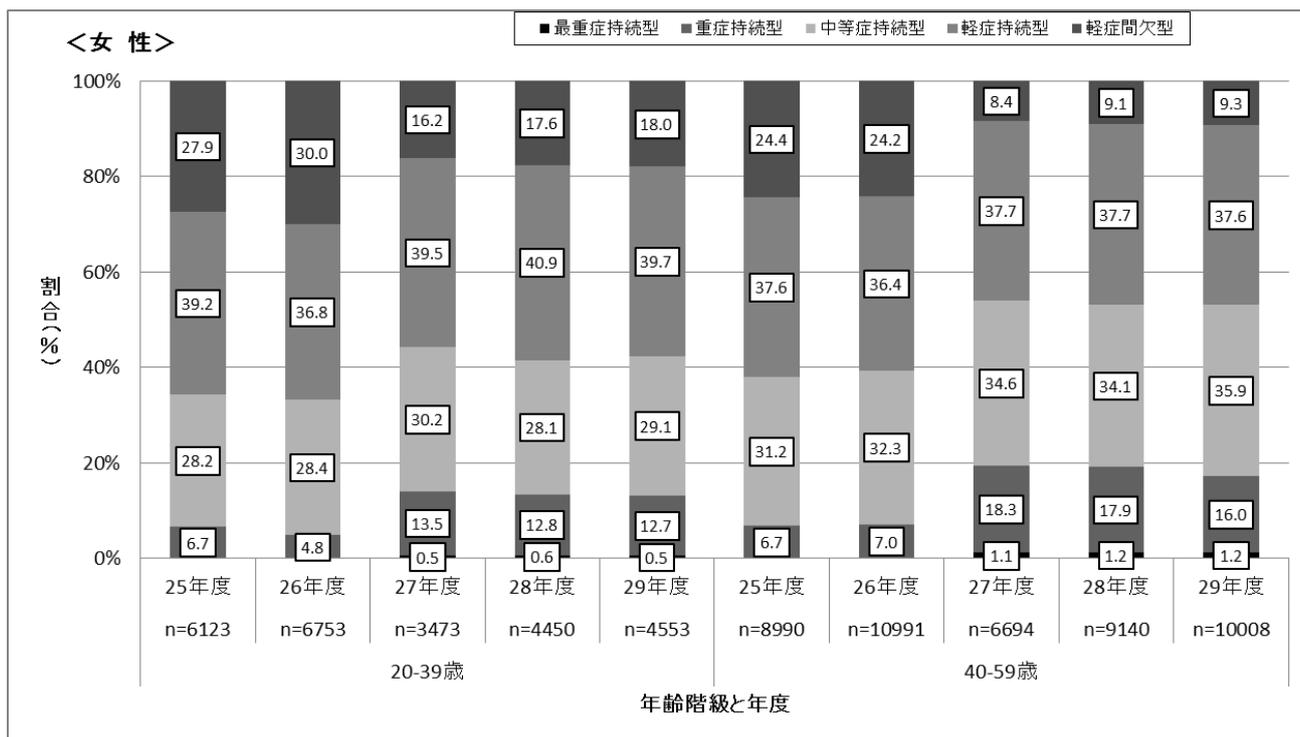
<男性>





<女性>





年度別年齢階級別の重症度分布について、H27年度以降は、男女ともに大きな変化はなく横ばいに推移している。(n数が少数の「0-5歳」の階層を除く)

3 喫煙

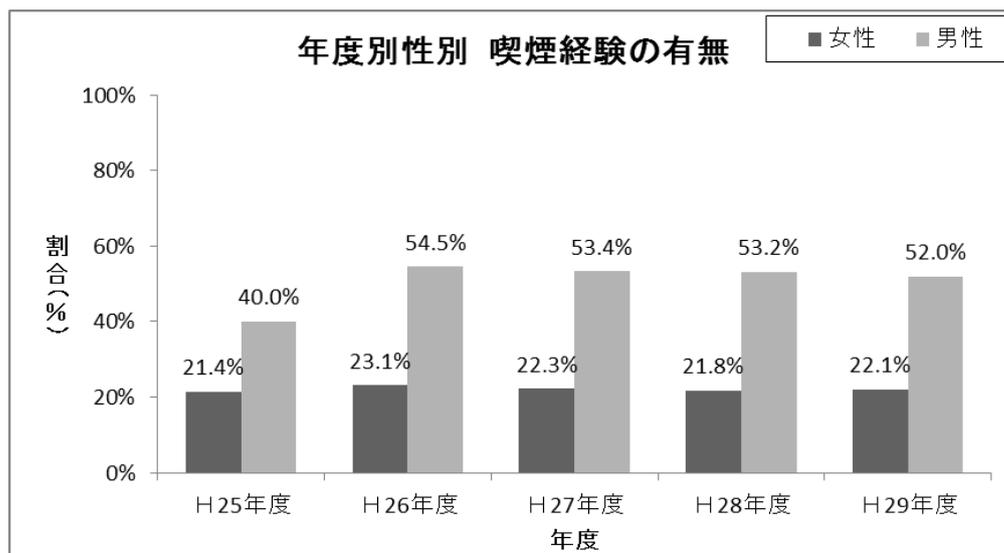
(1) 能動喫煙

a 全体

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
喫煙経験あり	29.2%	34.6%	33.9%	33.3%	33.0%

全体の能動喫煙経験「有り」の割合は、ここ5年間でやや漸減傾向にある。

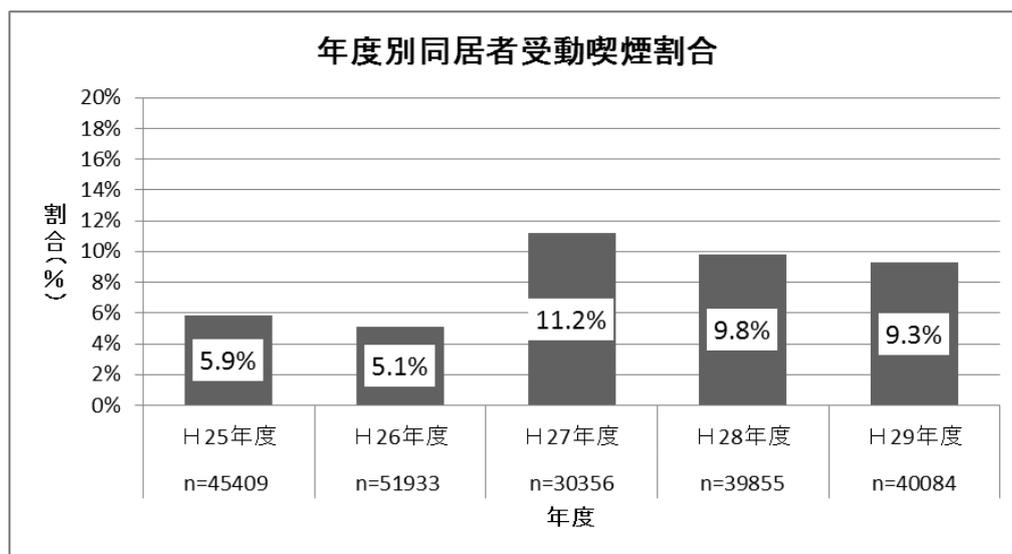
b 男女別



男女別で見た能動喫煙経験「有り」の割合は、男女ともにここ5年間でやや漸減傾向にある。

(2) 受動喫煙

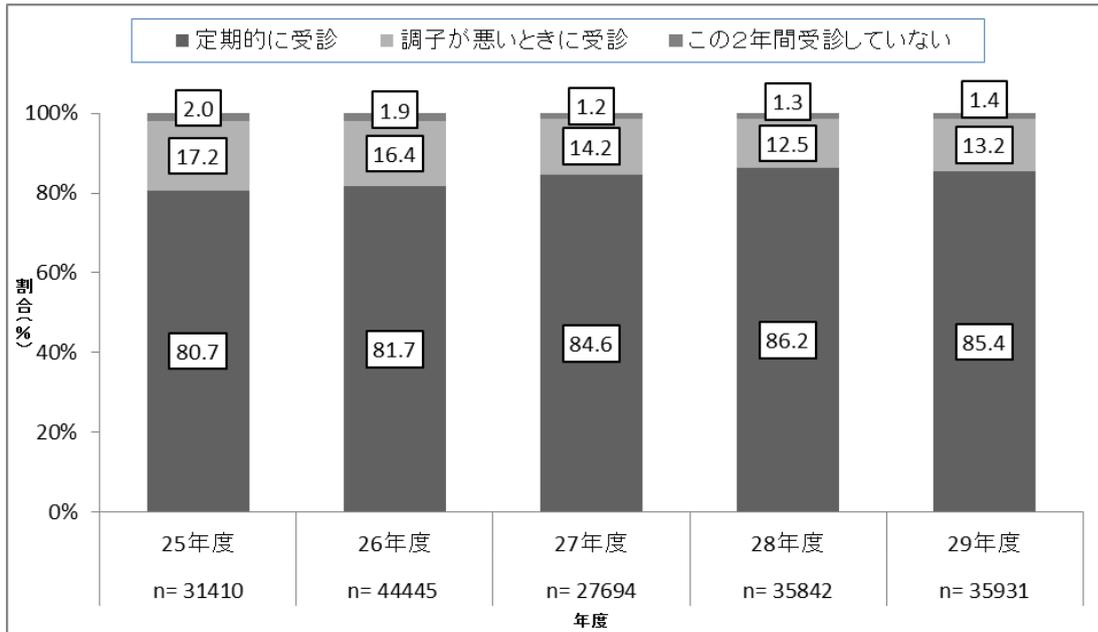
同居者の受動喫煙(主治医診療報告書より)



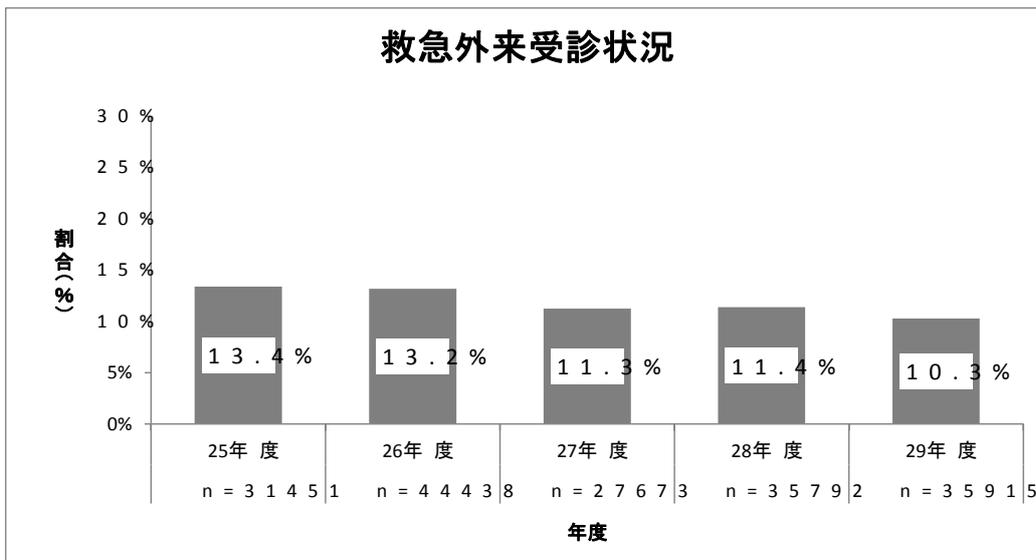
受動喫煙割合は、H26年度までは減少傾向にあったが、H27年度に割合が増加している。

(25年度までは改定前のアンケートの回答をもとにしていたが、改定後は同様の質問がなくなったため、主治医診療報告書の回答をもとに集計した。)

4 受診状況

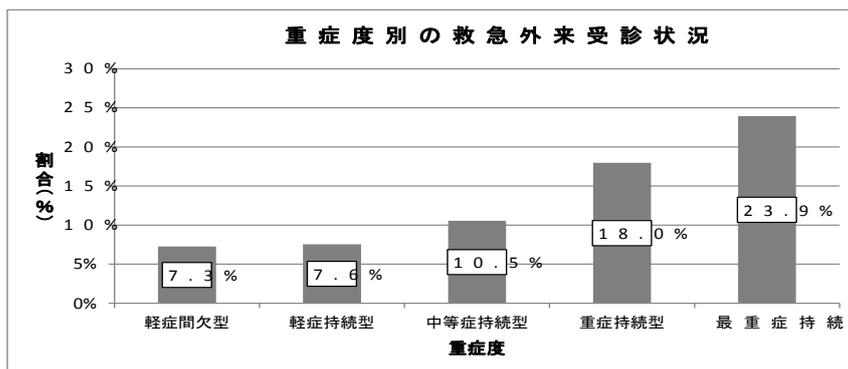


5 救急外来受診状況

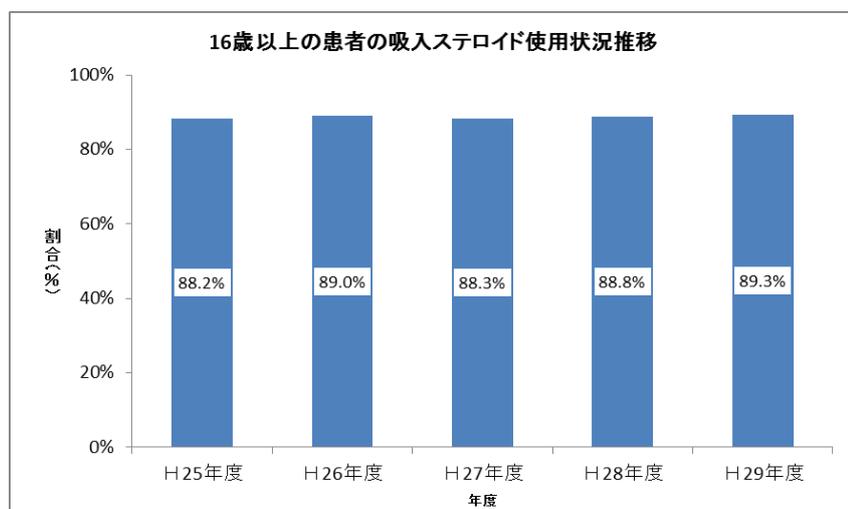
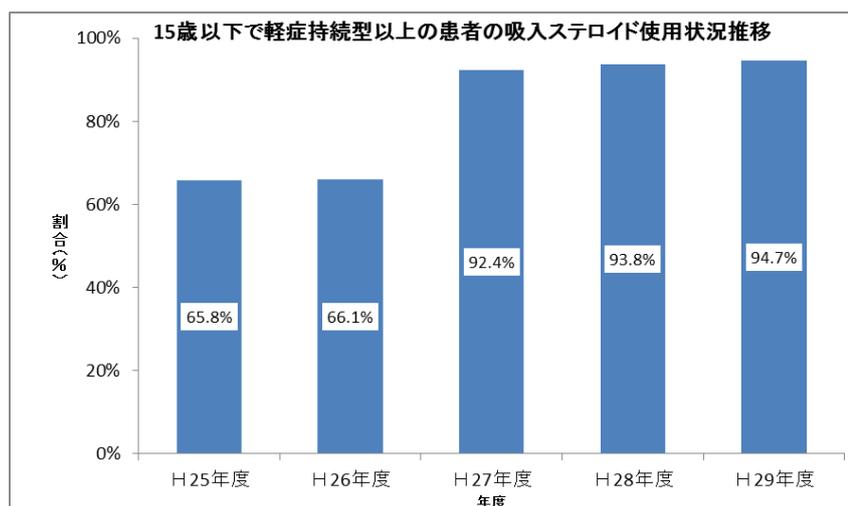


救急外来受診の割合は、ここ5年間で減少した。

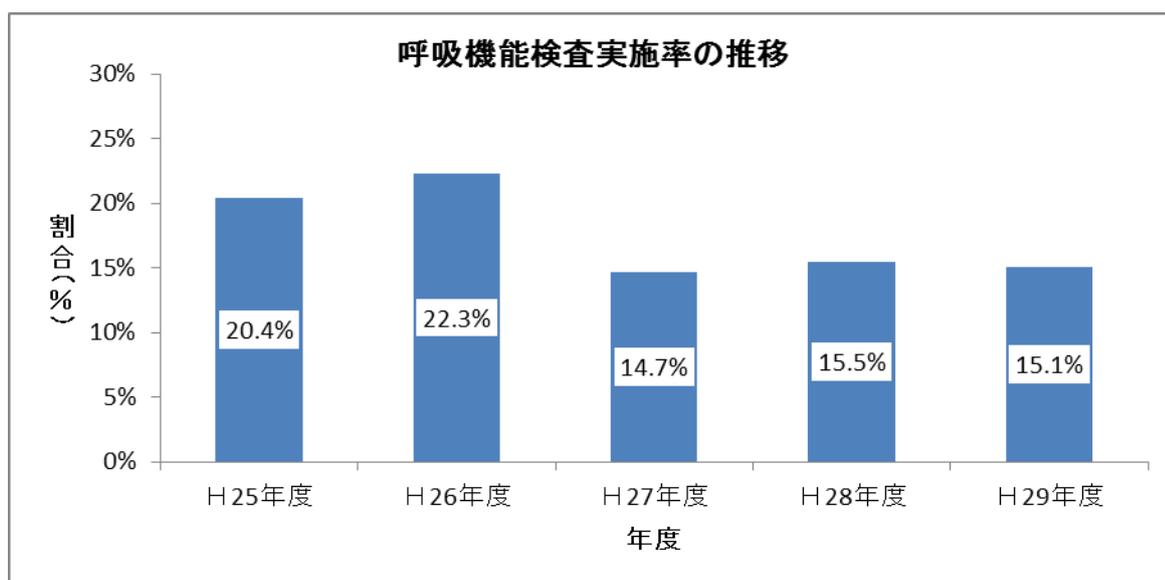
(参考 平成29年度認定患者における重症度別救急外来受診状況)



6. 治療薬（吸入ステロイド薬）



7. 呼吸機能検査実施率の推移



呼吸機能検査実施率は、H27年度以降に低下した。今後も喘息の状態を把握することの重要性を普及啓発する必要がある。